

(総合型選抜Ⅱ入試)

令和4年度入学試験問題

小論文

( 医学部 保健学科 放射線技術科学専攻 )

**【注意事項】**

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙1枚と下書き用紙1枚を別に配付してあるので確認すること。
4. 解答は、解答用紙に記入すること。解答用紙以外に記入したものは無効である。
5. 解答用紙の一つのます目に一文字ずつ入れること。
6. 字数は800字以内とする。
7. 解答用紙の指定された欄に、受験番号を記入すること。
8. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
9. 配付された問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ること。

問題

放射線による画像診断は現代医療にとって必要不可欠なものだろう。一方で、放射線を用いた検査を受ける患者は被ばくを伴う。患者の被ばく線量に上限値は定められていないものの、各検査で標準的に使用される線量の指標として「診断参考レベル」が公表されている。

放射線利用に当たっては適正な判断や管理が求められるが、放射線診療はどのような原則を踏まえて行われるべきか。放射線利用の是非（正当化されるかどうか）の判断根拠や診療を行う際に配慮すべき点に触れながら、以下のキーワード・キーフレーズを全て用いてあなたの考えを述べなさい。

用いたキーワード・キーフレーズには全てアンダーラインを付すこと。

なお、キーワード・キーフレーズを用いる順序及び回数は任意とする。

キーワード・キーフレーズ：

影響      リスク      利益      質を担保      最低限の線量

注釈：画像診断とは、放射線や超音波等を用いて体内を画像化して診断する方法。放射線を利用する検査では、一般に、用いる放射線量を多くすると画質が向上するが、患者の被ばくは増える。

被ばくとは、人体が放射線に晒されること。

(制限字数：800字)